

# 青少年海外視察研修

## タイ・シンガポールへ 十四名派遣

光町の未来を担う青少年に豊かな人格と広い国際感覚を備えてもらうために青少年海外派遣事業を行っています。

今年は、タイとシンガポールへ高校生と女性、さらに中止になった県の洋上研修派遣生も含めた次の十四名が派遣され、貴重な体験をしてきました。

鈴木正雄さん(二又)・向後佳絵さん(桑郷)・村越由



▲シンガポール マーライオン像をバックに参加した皆さん

美子さん(桑郷)・村越千恵

さん(桑郷)・大木要輔さん

(西高野)・越川勤さん(宮

内)・石川博章さん(橋場)・

椎名秀治さん(五ノ神)・大

木智晶さん(篠本二区)・平

山恭則さん(篠本三区)・飯

島孝夫さん(芝崎)・伊藤成

勝さん(尾垂六区)・実川昌

明さん(関)・平山和浩さん

(谷中)。

十四名が感想をまとめてくれましたので紹介します。

### 日本の豊かさを

### 知らされた

### 海外研修

七月二十八日、初めて海外に出る私達は、不安と期待を一杯にして出発。予定どおり成田を出発と思ったら飛行機の故障で約一時間遅れで出発。タイに着いて入国手続きを済ませて外に出ると鼻につく



▲バンコクの市場でタイ米に触れる

臭いと辺りの様子の違いが外国であると実感させられた。

空港からホテルへ向う国道沿いには、隙間なく建てられた窓もないバラック家が並ぶ。その前の線路では、ハダカの子供達が遊んでいる。豊かでない生活を見て、日本の終戦直後の写真でも見ているような感じがした。私達の生活がなんて贅沢なんだと感じさせられることが度々あった。道路にひざまづきお金を乞う子供達、観光地で物売りをする姿。メナム川から支流へ入って水上マーケットへ向う途中の川の上に建つ家々。ドロ水、暁の寺院、エメラルド寺院、

王宮は、タイの代表的な建物であり、大変きらびやかです。ばらしいものであった。しかし、川沿いに建つ家々とのギャップの大きさに驚かされるとともに、疑問を感じてしまった。

市場でタイ米を見た。日本の米とは違い、長ひよく、古米のような臭いがあった。このタイ米やカリフォルニア米の輸入という問題が出て、いるが、こんな米が日本に入ってきたらたいへんなことだと実感した。

市場には、野菜、果物、卵、カエルや豚などの肉、魚介類、雑貨品などなんでもある。しかし、臭いのにはマイッタ。皆そそくさとバスに乗ってしま



▲シンガポールのピューター工場

った。

シンガポールは、空港も国際的で、市内もきれいだである。

マウントフェーバー、植物園、市政庁と見学、マーライオンは予想していたより小さいなと思った。ビルが軒なみ高く近代的である。観光都市というだけあってきちんとした都市計画などは、見習うところが多かった。

「日本人は金持ち」というイメージが強いのかいろいろなどところで声をかけられたり、店では、しつこく店員がついてきたりする。もう少し自由にさせてくれという気分になった。

この研修に参加して、本当に今の日本、私達のすべてが恵まれていることを痛感し、私達の生活が普通なのではなく、特別なものだということをお忘れてはならないと思い知らされています。

最後に、私達を派遣していただきありがとうございます。この経験を生かして、光町の住民として頑張っていきます。